

## 2012年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2012)

### ◇ 企画趣旨

YPPは、若手研究者の交流を目的とした、忌憚のない議論を行なう研究会です。

今年のYPPでは、個人の研究発表に加え、昨年好評であったディスカッション企画を予定しております。今回のディスカッションテーマは「**心理学者のあり方**」についてです。普段皆様が接している研究分野に限らず、一つの学問としての心理学という観点から、社会に対して、教育に対して、心理学者だから出来ること、また果たすべき役割について参加者の皆様に議論を行なって頂きます。本企画が、参加者の皆様にとって、将来的に目標とする心理学者像の形成や再認識をするきっかけになればと思っております。

### ◇ 日時／場所

2012年10月5日 (金) 15時~18時 (延長あり)

松江テルサ 4階研修室1 (JR山陰本線松江駅徒歩1分)

[ <http://www.sanbg.com/terrsa/floor/kaigi.html> ]

※参加費は無料です。(ご当地のお土産の持ち込み、大歓迎です!)

### ◇ 懇親会

研究会終了後、会場近くのお店を準備しています。ぜひご参加ください。

「**炉端かば 松江店**」 [ [http://www.robata-kaba.jp/tenpo/robata\\_kaba\\_matsue.html](http://www.robata-kaba.jp/tenpo/robata_kaba_matsue.html) ]

### ◇ タイムスケジュール

時刻	内容
15:00	開会のあいさつ, 自己紹介
15:30	ディスカッション企画 (グループディスカッション) ①下位テーマでの議論 ②共通テーマでの議論
16:50	休憩
17:00	研究発表 第一発表者: 舛田亮太さん 第二発表者: 神崎真実さん
18:00	閉会のあいさつ
19:00	懇親会

※自己紹介の際に、氏名・所属・研究テーマと何か一言をお願いします!!

## ◇ ディスカッション企画

### 「心理学者」のあり方について議論する-研究者・教育者・実践家としての視点から-

研究結果を如何に社会に還元し、後進を育てていくかということは、将来、心理学に関わり活動が続けるうえで、常に意識しなければいけない問題です。そこで、今回は、働きかける対象の違いにより、心理学者を**研究者(学界に貢献)**・**教育者(学生の教育に貢献)**・**実践家(社会に貢献)**という3つの立場に分け、議論を行なって頂きます。それぞれの現状と展望について考えることで、将来的に目指す心理学者像を明確にし、今後の活動に役立てて頂ければと思います。学年や役職などは気にせず、若手研究者だから出来る自由な発想で議論し合いましょう。

## ディスカッションの流れ

- ①企画の説明 (10分)
- ②下位テーマでの議論 (35分)
  - ・小グループに分かれてのディスカッション
  - ・テーマは、**研究者・教育者・実践家**、いずれかの立場での「心理学者のあり方」  
(どのテーマに当たるかは事前のアンケートを参考に割り振らせて頂きます)
- ③共通テーマでの議論 (25分)
  - ・テーマは、「心理学者のこれから」
- ④全体のまとめ (10分)

## ◇ 研究発表 【一人当たり30分(発表時間20分, 質疑応答10分)】

通常の学会・研究会よりもフランクに、「研究についての疑問に対して、参加者全員で考える」ような雰囲気になりたいと思っています。

**発表者 1：神崎真実 (立命館大学大学院 文学研究科)**

**題目：高校生と教員の交流における躓きのモデル化を目指して**

**要旨：**近年、教師が個々の生徒への対応力を向上させることが求められている。従来の研究では個別の状況を捨象した斉一化した生徒への「望ましい対応」の知識が産出されてきた。しかし、個別の生徒への対応の在り方を考えるには、生徒が教師を訪れる実際の状況から生徒対応について理解する必要がある。そこで本研究は全日制単位制高校をフィールドとし、教員の生徒対応とそれに対する生徒の応答をセットで観察・記録することで、生徒と教師の交流に躓きが発生する条件や状況を検討する。

発表者 2：舩田亮太（久留米大学 医学部）

題目：児童相談所一時保護所におけるグループワーク

-「気持ちの自己評価シート」の作成とその適用について-

要旨：一時保護所においては個別の心理療法、心理検査だけでなく、集団療法（グループワーク）の実践が近年重要視されている。児童養護施設での集団療法についてはこれまで報告がいくつかみられるが、一時保護所での実践報告については未だ少ないのが現状である。当日の発表では、一時保護所においてグループワークを行うことの難しさ、また実践に対する保護児自身の自己評価を導入することの難しさを説明し、「気持ちの自己評価シート」の作成とその適用について検討したい。

YPP2012の開催に際して、日本パーソナリティ心理学会第21回大会準備委員会より、多大なご支援・ご協力を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

◇ 企画

氏家悠太(千葉大学)・加藤仁(名古屋大学)・徳永侑子(岡山大学)・福田哲也(広島大学)

◇ 主催

日本パーソナリティ心理学会広報委員会（薊理津子・梅本貴豊・浦田悠・長谷川由加子）